

(臨床研究に関する公開情報)

埼玉病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究で検体や情報を利用することを希望しない場合は、研究対象から除外いたしますので、末尾の【問い合わせ先】へご連絡ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

【研究課題名】 分娩時または分娩後異常出血をきたした症例の検討

【研究責任者】 産婦人科 医師 河村 佑

【研究の背景】

周産期管理の進歩により母体死亡率は著明に低下しましたが、周産期における出血は依然として母体死亡の主要な原因です。命を脅かすような分娩時あるいは分娩後の出血は妊産婦の 300 人に約 1 人に起こる合併症です。このような産科の出血に対しては、速やかな輸血が重要で、止血のために子宮動脈塞栓術や子宮摘出術を行う事があります。2015 年 10 月に地域周産期母子医療センターとなり、2018 年 11 月からは埼玉県母体・新生児搬送コーディネーター事業に参画しています。参画以降は癒着胎盤や前置胎盤のような分娩時、分娩後の大量出血の際に子宮摘出術が必要な場合が増加しています。そのために症例検討と現行の当院の管理体制の評価は重要と考え、評価の結果によって、医療資源、人材のよりの確な選択が行える展開も有望です。

【研究の目的】

当院で分娩時または分娩後異常出血をきたした患者における、病態・治療法に寄与する因子を検討する。特に、分娩後に子宮摘出を要した症例の母体背景、治療介入、周産期予後に関して検討する。

【研究の方法】

●対象となる患者さん

西暦 2011 年 1 月 1 日から西暦 2024 年 3 月 31 日の間に当院で妊娠管理、分娩管理を受けた方

●研究期間：西暦 2023 年 6 月 1 日から西暦 2025 年 3 月 31 日

●利用する情報

カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果(血液検査、超音波検査)、分娩経過、分娩時所見(分娩時の出血量を含む情報)、分娩時の医療介入に関する情報(輸血、子宮動脈塞栓術や子宮摘出術を含む情報)、新生児予後(出生時体重、アプガールスコア、臍帯動脈血 pH、NICU 入院の有無を含む情報)

【研究組織】 この研究は、当院のみで実施されます。

【情報の管理】 情報は、当院のみで利用します。

この研究に関わって収集される試料・情報は、外部に漏えいすることのないよう、慎重に取り扱います。

収集した情報は、解析する前に氏名・住所・生年月日等の研究に不要な情報を削除し、代わりに研究用の識別符号をつけ、どなたのものか分からないようにします(このことを仮名化といいます)。仮名化した試料・情報は、電子カルテにログインしたときのみ閲覧可能なファイル内で厳重に保管します。

研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も氏名などの個人情報が明らかにならないようにした上で公表します。

【問い合わせ先】

国立病院機構埼玉病院

産婦人科 河村 佑

電話 048-462-1101